

令和2年度

事業報告書



学校法人 行吉学園

目次

I	法人の概要	1
1	基本情報	1
2	建学の精神・教育綱領	1
3	法人の沿革	2
4	学校・学部・学科等の定員と現員（令和2年5月1日現在）	3
5	学生・園児数の推移及び収容定員充足率（過去5年間）	4
6	教職員数の推移（過去5年間）	4
7	役員の概要（令和2年7月1日現在）	5
8	評議員の概要（令和2年7月1日現在）	6
9	理事会・評議員会の開催状況（令和2年度）	7
10	施設等の状況（令和3年3月31日現在）	9
11	法人組織構成図（令和2年4月1日現在）	10
II	事業の概要	12
1	主な教育・研究の概要	12
(1)	卒業の認定に関する方針	12
(2)	教育課程の編成及び実施に関する方針	12
(3)	入学者の受入れに関する方針	12
2	令和2年度事業計画の進捗状況	12
(1)	教育に関する目標を達成するための計画	12
(2)	研究に関する目標を達成するための計画	14
(3)	社会貢献に関する目標を達成するための計画	14
(4)	学生の進路に関する目標を達成するための計画	15
(5)	学生支援に関する目標を達成するための計画	16
(6)	施設・設備に関する目標を達成するための計画	17
(7)	入試広報に関する目標を達成するための計画	17
(8)	幼稚園に関する目標を達成するための計画	17
(9)	組織に関する目標を達成するための計画	17
(10)	財政に関する目標を達成するための計画	18
	別記（1-2）教育内容に関する目標（各学科・研究科等）を達成するための計画	18
①	神戸女子大学	18
②	神戸女子大学大学院	21
③	神戸女子短期大学	22
3	特記事項	23
(1)	卒業生・修了者数の状況	23
(2)	国家試験の受験・合格状況	24
(3)	学修支援センター等	24
(4)	国際交流事業	25
(5)	図書館	26
(6)	研究	27
(7)	古典芸能研究センター	29
(8)	学生	30
(9)	保健室	32
(10)	教職支援	33
(11)	就職支援	34
(12)	入試広報	35
(13)	収益的事業	37
(14)	幼稚園	37
(15)	新型コロナウイルス感染症に対する主な取組み	39

目 次

Ⅲ 財務の概要	4 1
1 決算の概要	4 1
(1) 貸借対照表関係	4 1
(2) 資金収支計算書関係	4 1
(3) 事業活動収支計算書関係	4 3
2 その他	4 4
(1) 有価証券の状況	4 4
(2) 借入金の状況	4 4
(3) 学校債の状況	4 4
(4) 寄付金の状況	4 4
(5) 補助金の状況	4 5
(6) 収益事業の状況	4 5
(7) 関連当事者との取引の状況	4 5
(8) 学校法人間財務取引	4 5
3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	4 5

I 法人の概要

1 基本情報

- (1) 法人の名称 がっこうほうじんゆきよしがくえん
学校法人行吉学園
- (2) 主たる事務所 兵庫県神戸市中央区港島中町四丁目7番2号
代表電話番号 078 (303) 4700
ホームページ <https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/>

2 建学の精神・教育綱領

建学の精神

本学園の教育は 民主的で文化的な国家を建設して 世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある そのためには 人格の完成をめざし 平和的な国家および社会の形成者として 真理と正義を愛し 個人の価値をたっとび 勤労と責任を重んじ 自主的精神に充ちた心身ともに 健康な国民の育成に力をつくすにある

教育綱領

学術の研究を通して人生社会に対する広い視野と深い洞察とを身につけ 識見高く 心情豊かな女性を育てる

個性の伸長をはかり 社会に貢献しうる人材を育てる

勤労を愛し 義務と責任を重んじ 自律的に行動する態度を養う

宗教的情操を培い 謙虚にして愛情深く よく苦難に耐え 常に信念に生きる女性を育てる

明朗にして礼節あり 健康にして柔軟な心身の持ち主となり よく世代を導きうる女性を育てる

3 法人の沿革

昭和 15 年 11 月	神戸新装女学院を設立
〃 21 年 9 月	財団法人神戸新装女学院に組織変更
〃 25 年 4 月	神戸女子短期大学服装科を設置
〃 26 年 2 月	学校法人行吉学園に組織を変更
〃 41 年 4 月	神戸女子大学家政学部を設置
〃 44 年 4 月	神戸女子大学文学部を設置
〃 48 年 4 月	神戸女子大学附属高倉台幼稚園を設置
〃 59 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻を設置
〃 61 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻、英文学専攻、日本史学専攻を設置
〃 62 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科教育学専攻を設置
平成元年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学を設置
〃	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻及び文学研究科教育学専攻に博士課程を設置
〃 3 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本史学専攻に博士課程を設置
〃 4 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科英文学専攻に博士課程を設置
〃	法人本部及び神戸女子短期大学を移転
〃 5 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻に博士課程を設置
〃 7 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻を設置
〃 8 年 4 月	神戸女子大学文学部に社会福祉学科を設置
〃	神戸女子短期大学に総合生活学科・食物栄養学科を設置
〃	神戸女子大学瀬戸短期大学に生活専攻・食物栄養専攻を設置
〃	神戸女子短期大学初等教育科を初等教育学科に名称変更
〃	神戸新装学院を廃止
〃 9 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻に博士課程を設置
〃 10 年 6 月	神戸女子短期大学服装科・家政科を廃止
〃 11 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学英語科を文化コミュニケーション科に名称変更
〃 13 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の募集停止
〃 14 年 7 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の廃止認可
〃 15 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学生活科の募集停止
〃	神戸女子大学学校教育学専攻科の設置
〃 16 年 5 月	神戸女子大学瀬戸短期大学の廃止認可
〃 18 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康福祉学科、文学部日本語日本文学科、文学部英語英米文学科、文学部神戸国際教養学科を設置
〃	神戸女子大学文学部文学科、文学部社会福祉学科の募集停止
〃	神戸女子短期大学専攻科保育専攻を設置（平成 23 年 3 月廃止）
〃 21 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科を設置、同学部健康福祉学科を社会福祉学科に、神戸女子短期大学初等教育学科を幼児教育学科に名称変更
〃 23 年 4 月	社会福祉法人神女さずな会を設立し、神女中山手保育園を開設
〃 27 年 4 月	神戸女子大学看護学部看護学科を設置
〃 28 年 4 月	神戸女子大学大学院健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置
〃 30 年 4 月	神戸女子大学文学部神戸国際教養学科を国際教養学科に名称変更
〃 31 年 4 月	神戸女子大学大学院看護学研究科看護学専攻を設置
令和 3 年 3 月	神戸女子大学附属高倉台幼稚園を廃止（幼保連携型認定こども園へ移行）

4 学校・学部・学科等の定員と現員（令和2年5月1日現在）

（単位：人）

区 分	学部・学科等		入学定員	入学者数	収容定員	現 員	摘 要	
神戸女子大学大学院 (昭和59年4月設置)	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	前期	8	4	16	10	
			後期	2	0	6	2	
		生活造形学専攻	前期	6	0	12	0	
			後期	2	0	6	2	
		(小 計)		18	4	40	14	
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	前期	4	0	8	0	
			後期	2	0	6	0	
		英文学専攻	前期	4	0	8	0	
			後期	2	1	6	1	
		日本史学専攻	前期	4	2	8	2	
			後期	2	0	6	0	
		教育学専攻	前期	4	0	8	2	
			後期	2	0	6	4	
	(小 計)		24	3	56	9		
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻	4	5	8	8		
	看護学研究科 (博士課程)	看護学専攻	前期	8	7	16	15	平成31年4月設置
			後期	3	3	6	8	
(小 計)		11	10	22	23			
(合 計)			57	22	126	54		
神戸女子大学 (昭和41年4月設置)	家政学部	家政学科	80	85	320	352		
		管理栄養士養成課程	150	128	620	593		
		(小 計)	230	213	940	945		
	文学部	日本語日本文学科	60	46	240	262		
		英語英米文学科	60	58	240	267		
		国際教養学科	40	44	160	225		
		史学学科	60	52	240	255		
		教育学科	165	155	660	694		
		(小 計)	385	355	1,540	1,703		
	健康福祉学部	社会福祉学科	80	62	320	290		
		健康スポーツ栄養学科	80	67	320	304		
		(小 計)	160	129	640	594		
	看護学部	看護学科	90	88	340	357	令和元年度定員変更	
学校教育学専攻科			15	0	15	0		
(合 計)			880	785	3,475	3,599		
神戸女子短期大学 (昭和25年4月設置)	幼児教育学科		100	68	200	145		
	総合生活学科		120	108	240	205		
	食物栄養学科		120	65	240	151		
	合 計		340	241	680	501		
神戸女子大学附属高倉台幼稚園（昭和48年4月設置）			100	46	200	158		
総 計			1,377	1,094	4,481	4,312		

*管理栄養士養成課程の収容定員は、3年次編入学定員10人を含む。

*幼稚園の入学定員欄は募集可能人員を示す。

5 学生・園児数の推移及び収容定員充足率（過去5年間：毎年度5月1日現在）

（単位：人）

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
大 学 院	家政学研究科	博士前期	13	11	11	10	10
		博士後期	6	8	6	7	4
	文学研究科	博士前期	5	7	6	5	4
		博士後期	5	5	6	6	5
	健康栄養学研究科	修士課程	4	5	7	8	8
	看護学研究科	博士前期	—	—	—	9	15
		博士後期	—	—	—	5	8
	合 計	博士前期	22(修士を含む)	23(修士を含む)	24(修士を含む)	32(修士を含む)	37(修士を含む)
博士後期		11	13	12	18	17	
収容定員充足率		33.0%	34.6%	34.6%	43.5%	42.9%	
大 学	家 政 学 部	976	988	990	981	945	
	文 学 部	1,574	1,572	1,673	1,716	1,703	
	健 康 福 祉 学 部	548	555	564	584	594	
	看 護 学 部	178	266	352	361	357	
	合 計	3,276	3,381	3,579	3,642	3,599	
	収容定員充足率		103.0%	103.1%	105.9%	106.5%	104.0%
	学校教育学専攻科		1	2	2	0	0
短期大学	幼 児 教 育 学 科	207	188	174	159	145	
	総 合 生 活 学 科	223	185	179	193	205	
	食 物 栄 養 学 科	232	189	188	186	151	
	合 計	662	562	541	538	501	
	収容定員充足率		91.9%	80.3%	79.6%	79.1%	73.7%
幼 稚 園	合 計	196	169	159	140	158	
	収容定員充足率		98.0%	84.5%	79.5%	70.0%	79.0%

6 教職員数の推移（過去5年間：毎年5月1日現在）

（単位：人）

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
本務教員	神 戸 女 子 大 学	178	179	181	185	186
	神 戸 女 子 短 期 大 学	39	40	40	38	36
	高 倉 台 幼 稚 園	7	7	7	8	13
	合 計	224	226	228	231	235
兼務教員	合 計	294	301	314	318	326
本務職員	法 人 本 部	9	9	9	8	8
	神 戸 女 子 大 学	69	70	72	68	71
	神 戸 女 子 短 期 大 学	14	13	11	10	10
	高 倉 台 幼 稚 園	3	3	3	3	3
	合 計	95	95	95	89	92
兼務職員	合 計	134	143	142	132	97
本務教職員合計		319	321	323	320	327

*本務教職員（平均年齢）教員 52.8 歳・職員 49.2 歳、（平均勤続）教員 11.9 年、職員 17.5 年 [令和2年5月1日現在]

7 役員概要（令和2年7月1日現在）

(1) 理事

[定数：8名 任期：4年]

区分	氏名	常勤・非常勤	就任年月日	主な現職等
理事長	行吉 宜孝	常勤	平成22年6月29日 (平成31年4月1日 理事長就任)	
理事	栗原 伸公	常勤	平成30年6月29日	神戸女子大学長・神戸女子短期大学長
	前田 研史	常勤	平成31年4月1日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
	伊吹 眞澄	常勤	平成30年6月29日	(学) 行吉学園法人本部長 兼 財務部部长
	杉原 基弘	常勤	平成31年4月1日	(学) 行吉学園総務部部长
	今井 修平	非常勤	平成18年4月1日	
	根岸 成直	※非常勤	平成18年6月29日	
	小川 清四郎	※非常勤	平成30年6月29日	

※印：非業務執行理事

(2) 監事

[定数：3名 任期：4年]

区分	氏名	常勤・非常勤	就任年月日	主な現職等
監事	横田 成樹	非常勤	平成26年6月29日	
	亀井 尚也	非常勤	平成23年5月27日	弁護士
	芳木 伸吉	非常勤	平成18年6月29日	

(3) 責任免除・責任限定契約、役員賠償責任保険契約の状況

ア 責任の免除

学校法人行吉学園寄附行為において次のとおり責任の免除等を定めている。

(責任の免除)

第47条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。

(責任限度契約)

第48条 理事（理事長又はこの法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金30万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

イ 責任限定契約

対象役員の氏名	非業務執行理事……根岸 成直 ・ 小川 清四郎 監 事……………横田 成樹 ・ 亀井 尚也 ・ 芳木 伸吉
契約内容の概要	非業務執行理事又は監事がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金30万円と、在職中に学校法人から職務執行の対価として受け、又は受けるべき役員報酬の1年間あたりの額に相当する額として私立学校法施行規則第3条の3に定める方法により算定される額に2を乗じて得た額との、いずれか高い額を限度として、損害賠償責任を負うものとする。ただし、損害額のうち責任限度額を上回る部分については当然に免責するものとする。
契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置	契約の内容として、役員が職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨を定めている。

ウ 役員賠償責任保険契約

団体契約者	日本私立大学協会	引受保険会社	東京海上日動火災保険株式会社
被保険者	記名法人……………学校法人行吉学園 個人被保険者……………理事、監事		
保険期間	2020年4月1日（午後4時）から2021年4月1日（午後4時）まで		
補償内容	(1) 役員（個人被保険者）……法律上の損害賠償金、争訟費用等 (2) 記名法人……………法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等		
支払いの対象とならない主な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・被保険者が私的な利益または便宜の供与を違法に得たことに起因する対象事由 ・被保険者の犯罪行為に起因する対象事由 ・法令に違反することを被保険者が認識しながら行った行為に起因する対象事由 <p style="text-align: right;">等</p>		
総支払限度額	5億円	保険料負担者	学校法人行吉学園

※当該保険契約の内容は、令和元年度第22回常任理事会（令和2年3月11日）決議に基づくものである。

8 評議員の概要（令和2年7月1日現在）

[定数：20名 任期：4年]

氏名	就任年月日	主な現職等
多畑 寿城	平成31年4月1日	(学) 行吉学園学園サポートセンター事務部部长
長瀬 莊一	平成14年6月29日	神戸女子短期大学教授
伊吹 眞澄	平成30年6月29日	(学) 行吉学園法人本部長 兼 財務部部长
杉原 基弘	平成31年4月1日	(学) 行吉学園総務部部长
廣畑 俊介	平成18年9月8日	(学) 行吉学園学園企画部部长
山脇 喜子	平成30年6月29日	
羽多 悦子	平成30年6月29日	
市川 清美	平成30年6月29日	
糸井 亜弥	平成18年6月29日	神戸女子大学准教授
吉田 千佳子	平成18年6月29日	
林 利恵子	昭和55年7月4日	神戸女子大学准教授
春木 和子	平成16年7月29日	
十一 玲子	平成14年6月29日	神戸女子大学准教授
吉田 幸世	平成18年6月29日	神戸女子大学技術職員
今井 修平	平成18年4月1日	
前田 研史	平成31年4月1日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
森野 茂樹	平成18年6月29日	
木村 奈帆子	平成31年4月1日	神戸女子大学附属高倉台幼稚園園長
浅木森 和夫	平成22年6月29日	神戸女子大学教授
大柿 文昭	令和2年6月6日	神戸女子大学教育後援会会長

9 理事会・評議員会の開催状況（令和2年度）

(1) 理事会

回数	開催 年月日	主な協議事項	出席状況 (定数8名)		
			出席	欠席	計
1	令和2年 5月25日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸女子短期大学の入学定員の見直し及び教職課程の認定の取り下げについて ・入学検定料の見直しについて ・新型コロナウイルス感染症に係る学生、教職員への緊急支援について（報告） 	8	0	8
2	令和2年 6月26日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に係る学生への経済的支援について ・令和元年度事業報告について ・令和元年度決算について ・新学部の設置について ・令和2年度賞与について ・学校法人行吉学園「行吉哉女基金」の用途について ・学園諸規程の一部改正について <ul style="list-style-type: none"> (1) 行吉学園環境（人権）改善委員会規程の一部改正 (2) 行吉学園再雇用に関する規程の一部改正 (3) 行吉学園特任教員規程の一部改正 (4) 行吉学園賞罰委員会規程の一部改正 ・令和2年度入学試験の結果及び令和3年度入学試験等の概要について（報告） 	8	0	8
3	令和2年 9月28日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・新学部設置の届出等について ・幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の設置について <ul style="list-style-type: none"> (1) 神戸女子大学附属高倉台幼稚園の廃止 (2) 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の設置 (3) 学校法人行吉学園寄附行為の一部変更 (4) 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園運営規程の制定 (5) (仮称) 神戸女子大学附属高倉台幼稚園改修工事建設事業に関する事項の理事長への一任について ・神戸女子大学学則の一部改正について ・新型コロナウイルス感染者の発生状況等について（報告） 	8	0	8
4	令和3年 3月24日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・法人職員である評議員の推薦について 	8	0	8
5	令和3年 3月24日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度補正予算について ・令和3年度事業計画について ・令和3年度予算について ・学園諸規程の一部改正について <ul style="list-style-type: none"> (1) 学則の一部改正 <ul style="list-style-type: none"> ア 神戸女子大学学則の一部改正 イ 神戸女子大学大学院学則の一部改正 ウ 神戸女子短期大学学則の一部改正 (2) 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の設置に伴う関係規程の一部改正 <ul style="list-style-type: none"> ア 行吉学園理事会業務委任規則の一部改正 イ 情報の公開及び開示に関する規程の一部改正 ウ 行吉学園事務組織規程の一部改正 エ 行吉学園賞罰委員会規程の一部改正 オ 行吉学園再雇用に関する規程の一部改正 カ 学校法人行吉学園稟議規程の一部改正 キ 行吉学園教職員退職金規程の一部改正 ク 行吉学園経理規程の一部改正 ケ 神戸女子大学事務組織規程の一部改正 (3) 行吉学園学生寮規程の一部改正 ・新学部の設置による収容定員の増加に伴う神戸女子大学学則の一部改正について ・役員賠償責任保険契約について ・理事の競業について ・令和3年度入学試験の結果、新型コロナウイルス感染者の発生状況について（報告） ・教職員の異動（退職者・採用予定者）について（報告） 	8	0	8

(2) 評議員会

回数	開催 年月日	主な協議事項	出席状況 (定数20名)		
			出席	欠席	計
1	令和2年 5月25日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸女子短期大学の入学定員の見直し及び教職課程の認定の取り下げについて ・入学検定料の見直しについて ・新型コロナウイルス感染症に係る学生、教職員への緊急支援について(報告) 	19	1	20
2	令和2年 6月26日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に係る学生への経済的支援について ・新学部を設置について ・令和2年度賞与について ・学校法人行吉学園「行吉哉女基金」の用途について ・学園諸規程の一部改正について <ul style="list-style-type: none"> (1) 行吉学園環境(人権)改善委員会規程の一部改正 (2) 行吉学園再雇用に関する規程の一部改正 (3) 行吉学園特任教員規程の一部改正 (4) 行吉学園賞罰委員会規程の一部改正 	17	3	20
3	令和2年 6月26日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度事業報告について(報告) ・令和元年度決算について(報告) ・令和2年度入学試験の結果及び令和3年度入学試験等の概要について(報告) 	17	3	20
4	令和2年 9月28日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・新学部設置の届出等について ・幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の設置について <ul style="list-style-type: none"> (1) 神戸女子大学附属高倉台幼稚園の廃止 (2) 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の設置 (3) 学校法人行吉学園寄附行為の一部変更 (4) 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園運営規程の制定 (5) (仮称)神戸女子大学附属高倉台幼稚園改修工事建設事業に関する事項の理事長への一任について ・神戸女子大学学則の一部改正について ・新型コロナウイルス感染者の発生状況等について(報告) 	18	2	20
5	令和3年 3月24日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会から推薦された評議員の選任について ・令和2年度補正予算について ・令和3年度事業計画について ・令和3年度予算について ・学園諸規程の一部改正について <ul style="list-style-type: none"> (1) 学則の一部改正 <ul style="list-style-type: none"> ア 神戸女子大学学則の一部改正 イ 神戸女子大学大学院学則の一部改正 ウ 神戸女子短期大学学則の一部改正 (2) 幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園の設置に伴う関係規程の一部改正 <ul style="list-style-type: none"> ア 行吉学園理事会業務委任規則の一部改正 イ 情報の公開及び開示に関する規程の一部改正 ウ 行吉学園事務組織規程の一部改正 エ 行吉学園賞罰委員会規程の一部改正 オ 行吉学園再雇用に関する規程の一部改正 カ 学校法人行吉学園稟議規程の一部改正 キ 行吉学園教職員退職金規程の一部改正 ク 行吉学園経理規程の一部改正 ケ 神戸女子大学事務組織規程の一部改正 (3) 行吉学園学生寮規程の一部改正 ・新学部設置による収容定員の増加に伴う神戸女子大学学則の一部改正について ・役員賠償責任保険契約について ・令和3年度入学試験の結果について(報告) ・新型コロナウイルス感染者の発生状況について(報告) ・教職員の異動(退職者・採用予定者)について(報告) 	18	2	20

10 施設等の状況（令和3年3月31日現在）

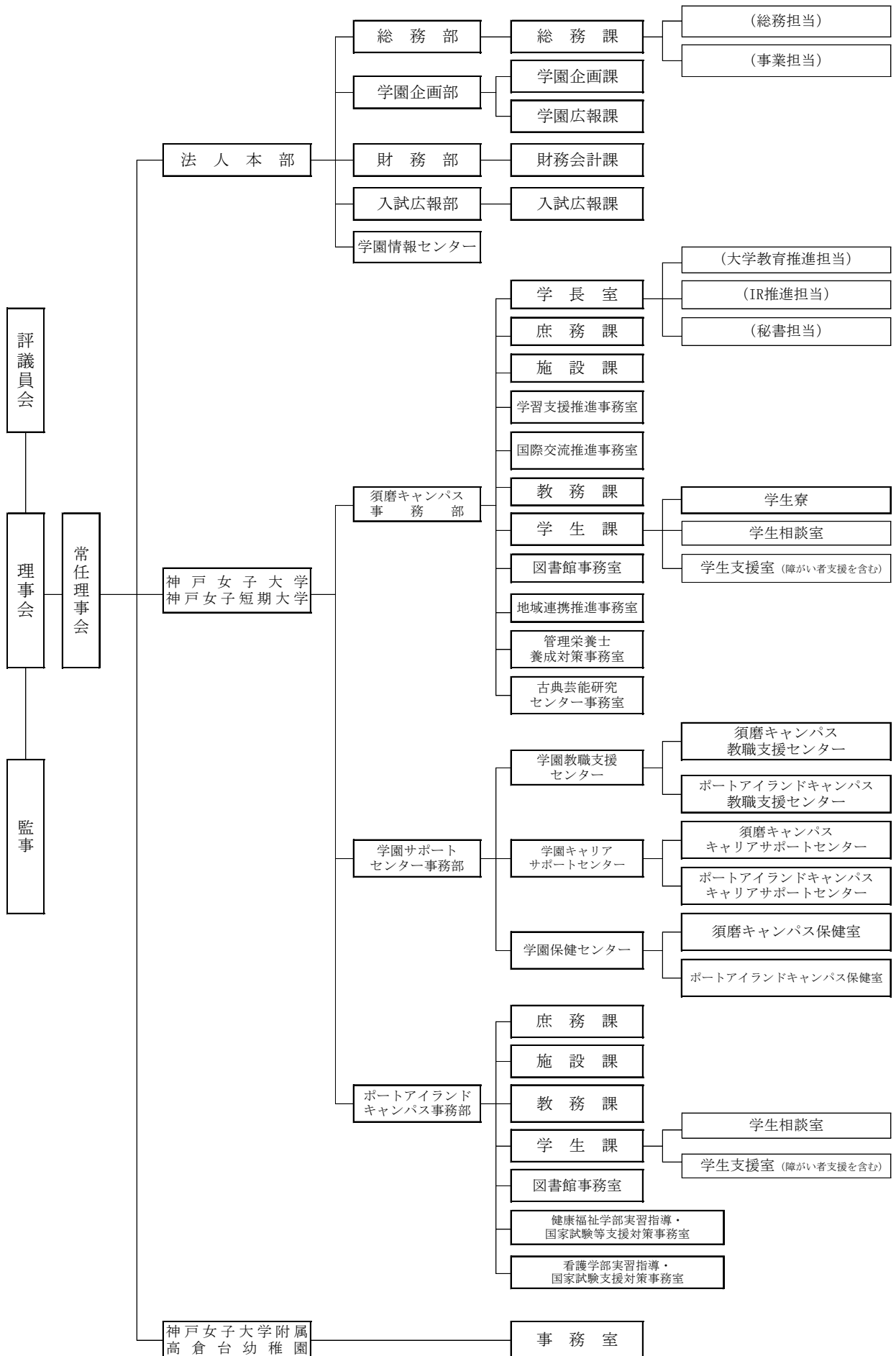
(1) 土地

区分	所在地	面積（㎡）	摘要
須磨キャンパス	兵庫県神戸市須磨区	133,389.12	神戸女子大学専用
P I キャンパス	兵庫県神戸市中央区	24,524.84	神戸女子短期大学専用
三宮キャンパス	兵庫県神戸市中央区	4,931.00	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
高倉台幼稚園	兵庫県神戸市須磨区	2,566.58	高倉台幼稚園専用
小計		165,411.54	
寄宿舍（行幸寮・天神寮）	兵庫県神戸市須磨区	3,128.13	神戸女子大学専用
セミナーハウス	米国ハワイ州ホノルル	683.65	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
職員宿舎	兵庫県神戸市須磨区	382.34	
合計		169,605.66	

(2) 建物

区分	面積（㎡）	摘要	
須磨キャンパス (兵庫県神戸市須磨区)	校舎	26,631.74	神戸女子大学専用
	体育館	3,460.50	
	図書館	6,081.45	
	実験室	57.60	
	守衛室	68.76	
	クラブ室	986.85	
	食堂	2,115.98	
	会館	246.80	
小計	39,649.68		
P I キャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校舎	10,855.36	神戸女子大学専用
		23,954.49	神戸女子短期大学専用
	守衛室	47.93	
	体育館	2,334.04	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
小計	37,191.82		
三宮キャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校舎（体育館を含む）	7,085.46	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
高倉台幼稚園 (兵庫県神戸市須磨区)	校舎	1,398.61	高倉台幼稚園専用
小計	85,325.57		
寄宿舍（行幸寮・天神寮）（兵庫県神戸市須磨区）	4,412.56	神戸女子大学専用	
セミナーハウス（米国ハワイ州ホノルル）	1,074.67	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用	
職員宿舎（兵庫県神戸市須磨区）	436.64		
合計	91,249.44		

(2) 事務組織



Ⅱ 事業の概要

1 主な教育・研究の概要

(1) 卒業の認定に関する方針

本学は、建学の精神に基づき、自立心に富み、対話力と創造性に優れ、人類社会の発展に貢献する女性を育成することを教育目標とする。これら自立心、対話力、創造性を十分に備える者として、知識・技能、能力及び資質が各学部・学科及び課程の定める基準に達しており、かつ所定の卒業要件を満たした者に、学位を授与する。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針

建学の精神に基づき、本学の教育目標及び各学部・学科及び課程が定める人材育成・教育研究上の目的を達成するための教育課程を編成し、自立心、対話力、創造性を培う教育内容及び方法を実施する。

(3) 入学者の受入れに関する方針

建学の精神に基づき、本学の教育目標及び各学部・学科及び課程の人材育成・教育研究上の目的に定める人材を育成するために、多様な能力を身に付けた学生を求める。

※各学科・課程、研究科ごとの方針は本学のホームページを参照ください。

2 令和2年度事業計画の進捗状況

中期目標並びに中期計画を達成していくために、令和2年度に取り組むべき施策の中から主な施策について取りまとめた令和2年度事業計画の進捗状況は以下のとおりである。

(1) 教育に関する目標を達成するための計画

(1-1) 自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画

・平成30年度及び令和元年度に学生に対して試行した大学全体の教育目標「自立心・対話力・創造性」の到達度調査を正式運用する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、遠隔授業の履修等を通じた学生の成長実感や自己評価が平均とどのように異なるかに注視して検証を行った。その結果、遠隔授業により主体性、表現力、論理的思考力の二極分化が見られたので、学科、FD・SD委員会と連携し、遠隔授業の改善につなげた。

- ・短大では、教育プログラムの点検を行い、点検結果を反映させた令和3年度入学生用の教育課程を教務委員会、教授会で決定するとともに、これをもとに整備した履修モデルをホームページで公開した。また、学位授与方針と授業科目との関連をシラバスで明示し、公開した。

(1-2)教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

- ・各学科、各研究科等の計画に対する進捗状況は別記のとおり

(1-3)教育内容に関する目標（全学共通教育部・教養教育委員会）を達成するための計画

- ・全学共通教育独自のカリキュラムポリシーを内部質保証委員会の助言を踏まえ作成した。
- ・全学共通教育科目「数学Ⅰ、Ⅱ」について、総合改革支援事業の方策で求められている Society5.0、AI教育等を含む授業内容のカリキュラム編成を全学的に行った。
- ・須磨・PI両キャンパスにおける全学共通教育科目としての英語をマネジメントする教員を採用した。

(1-4)教育課程に関する目標を達成するための計画

- ・大学では、CAP 制の厳格な実施を令和4年度から行うため、資格科目について各学科が実施できる科目を精査して廃止科目をリストアップした。
- ・大学では、コース新設による増減を除き、新規開講科目8科目に対し廃止科目11科目と、短大では、新規開講科目0科目に対し廃止科目7科目とコマ数の削減を行ったが、不開講及び廃止科目のガイドラインの適用が1年先送りになり、目標とした10%のコマ数削減に至らなかった。

(1-5)教育方法に関する目標を達成するための計画

- ・「神戸女子大学・神戸女子短期大学FD活動に関する方針」を策定し、FD活動を教育目標、ディプロマポリシーを達成するための内部質保証の取組みの一環として位置づけるとともに、学部・学科等でも自主的な取組みを行うこととした。
- ・遠隔授業を有効な授業方法の一つとして身につけ、授業の教育効果を向上させることを目的としてFD研修会を実施し、遠隔授業の強みと弱み、遠隔授業と対面授業を組み合わせた授業方法、具体的な事例について講演、グループワークを実施した。
- ・インターネットとの接続容量を100Mbpsから大容量の1Gbpsへ拡充するとともに、教員に対しZoomの使用説明会の開催や個別サポートの提供を行い、遠隔授業を円滑に実施した。
- ・ICT環境の基盤整備を進め、普通教室でWi-Fiが100%利用可能となった。
- ・学校に関する情報を学生等に個人別に提供するポータルサイトであるKissシステムで、新型コロナウイルス感染症に関する情報を学生等に提供した。

(1-6) 国際化に関する目標を達成するための計画

- ・新型コロナウイルス感染症により海外派遣プログラムの実施が困難になったため、協定校等に交渉し、ウダヤナ大学の日本語学科の学生と本学学生がオンラインで交流した。看護学科においては、3月にチェンマイ大学看護学部学生及び米国助産師と英語で専門交流を行った。今後は、他学科においても語学研修から専門研修に重点を移行していく。
- ・アメリカ、イギリス、オーストラリア、中国、台湾、タイ、インドネシア等の大学の学生と言語学習、異文化交流を行うオンライン・グローバル・カフェを開催し、本学学生 133 名が参加し、延べ参加者は 10 プログラムで 463 名となった。
- ・国際交流セミナーとして、カリフォルニア大学デービス校教授によるオンライン講義を開催し、本学学生、教職員、デービス校・ケント大学・チェンマイ大学の学生等合計 161 名が参加した。

(2) 研究に関する目標を達成するための計画

(2-1) 研究業績に関する目標を達成するための計画

- ・大学・短大共通の最低限必要な業績基準の設定に向けて、議論の土台となる原案を作成中である。
- ・社会貢献分野との一層の連携のもとで研究を活性化させることを目的に、大学・短大双方に関わる学外研究費情報の収集・周知に努めた。

(2-2) 学生の研究に関する目標を達成するための計画

- ・各ゼミで学生に学会・研究会の情報を提供し、これらに参加する学生が出てきた。
- ・教育学科心理学コースでは、学部生が教育学専攻の大学院生が行う実験に被験者として参加した。さらに関心をもった学部生は研究協力者として研究に参加し、博士論文と卒業論文の共同研究を計画している。大学院生と学部生が心理臨床現場で意見交換しながら、カンファレンスの記録、アセスメント等の学びを深めた。
- ・史学科では、第 2 回史学科卒業論文優秀賞に 2 名を選定し、学位記授与式で表彰した。昨年度の表彰制度の導入により学生の卒論作成の意欲が高まった。

(3) 社会貢献に関する目標を達成するための計画

- ・地域連携については、新型コロナウイルス感染症の影響により大きなイベントは中止又は延期となったが、「コンソーシアムひょうご神戸」がネット上で行う学生交流に参加したり、ローズフェスタに替わる小規模なイベントやワークショップを企画・実施した（家政学科「蜜蝋ラップ」、教育学科「カラフルロープを作ろう」「クリスマスリース」、キッズリーダー部「バルーンアート」）。
- ・学生 61 名に L I N E で地域連携活動の情報を提供するとともに、申込み、連絡等にも L I N E を活用した。地域連携活動報告書を 700 部作成し関係先に配布した。

(4) 学生の進路に関する目標を達成するための計画

(4-1) 進路支援に関する目標を達成するための計画

- ・オンラインによる卒業生体験談発表会を行うとともに、学生が自由な時間に繰り返し視聴できるオンデマンド方式でSPI対策講座を開講した。
- ・保護者に最新の就職状況、お願いしたい事項等をテーマにした動画を作成し、教育後援会事務局を通してWEB配信した。
- ・前期の資格講座をすべてオンラインによる開講とした結果、前期の受講者は昨年より119名減の325名となったが、これまで一部の講座を対面で受講していたPIキャンパスでもオンラインですべての講座を受講できるようになり、51名の学生が受講した。
- ・令和元年度に導入した就職システムS-NABIを活用して、令和2年3月卒業生の進路決定満足度調査を実施した結果、「とても満足している」「満足している」の回答が大学で82.3%、短大で94.3%あった。

(4-2) 専門就職に関する目標を達成するための計画

- ・キャリアサポートセンターでは、S-NABIにより学生の就職登録から就職活動終了までの活動を、相談指導記録も含め一括管理してきたので、新型コロナウイルス感染症下でも、学科からの問い合わせに即時に対応しつつ、ゼミや学科単位の小規模なガイダンスや学生・教員・スタッフによる三者面談をきめ細かく実施した。その結果、管理栄養士職と栄養士職希望者の85.2%、福祉職希望者の97.5%、看護師希望者の99.0%が専門職として就職した。
- ・教職支援センターでは、授業に関する情報を学生と教員が双方向で送受信する支援システムであるmanabaを活用し、就職情報の共有や学生指導にあたった結果、コロナ禍でも学生からの情報収集をスムーズに行うことができた。
- ・例年4月から開始する教員採用対策指導が6月からの実施となった。実技指導については感染対策を考慮し、教職支援センターに一括申し込みさせ、同センターから各教員に依頼して実施した。面接指導は6月からZoomで、7月末から対面で行った。
- ・教職支援センターは教員採用試験合格者の多い香川県、岡山市、宮崎県、鳥取県の教育委員会を訪問し、推薦枠の拡充依頼や意見交換を行った。

(4-3) 優良企業就職に関する目標を達成するための計画

- ・須磨・PI両キャンパスで合わせて18の業界セミナーを10月から12月にオンラインで実施した。WEB開催のため、授業に支障のない学生が別キャンパスの講座を受講することができた。
- ・コロナ禍の新企画としてオンデマンド方式により、業界研究、自己分析、インターンシップ、履歴書の書き方等14種類の就職ガイダンスを配信した。

(4-4) 公務員就職に関する目標を達成するための計画

- ・現職公務員による業務説明会（4回 16団体）、公務員講座ガイダンス（3回）等をオンラインで実施した結果、有料の公務員講座を例年並みの71名の学生が受講した。

(4-5) Uターン就職に関する目標を達成するための計画

- ・9月から11月に自治体、商工会議所等が開催する地方企業と大学関係者の情報交換会に直面又はZoomにより合計7回キャリアサポートセンター職員が参加し、69社と情報交換するとともに、11月にオンラインでUターン就職相談会を開催し、自治体23団体、学生25名が参加した。
- ・中国・四国地方全9県とUターン協定の締結を進めているが、令和2年度に岡山県、山口県と締結し、締結県は合計7県となった。
- ・過去3カ年の卒業生（東京・兵庫・大阪・京都を除く平成30年3月・平成31年3月・令和2年3月卒業生）の就職希望地、勤務地（又は企業所在地）のデータからUターン希望者就職率を算出した結果、就職が好調で大都市で採用された学生が多かった令和2年3月卒業生が含まれているにもかかわらず、希望者のうち76%がUターン就職を果たしていることが判明した。

(5) 学生支援に関する目標を達成するための計画

(5-1) 学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画

- ・学生アンケートについては、大学と短大で統一した調査書を用い、新型コロナウイルス感染症の影響度合いを把握した結果、生活に不安を感じる学生は存在したが、退学まで考える学生は数%と少なかった。また、オンラインにより授業への出席率や自習頻度は増加した。
- ・上級生によるピアサポートについては、須磨キャンパスで新入生が登学しはじめた後期一週間、上級生が「よろず相談所」を開設した。P I キャンパスではZoomによる新入生向けオリエンテーションに上級生が加わるなど、試験的にピアサポートを実施した。
- ・新入生歓迎会が中止となったが、学園祭代替イベントにおいてクラブブースを設け、新入生勧誘の機会を設けた（須磨キャンパス28クラブ・295名、P I キャンパス7クラブ・92名）。
- ・障がい学生支援ガイドラインに従って「障がい学生支援調整会議」を開催し、関係機関と具体的な支援内容を協議した（須磨キャンパス1名、P I キャンパス11名）。

(5-2) 経済的支援に関する目標を達成するための計画

- ・日本学生支援機構の奨学金貸与・受給者は、大学では1,690人、短大では259人で概ね2人に1人の割合となった。令和2年度より始まった修学支援制度（授業

料減免及び給付型奨学金)の受給者は、大学で299名、短大で94名となり、住民税非課税及びこれに準じた世帯への支援が拡充された。

- ・行吉学園奨学金制度は、大学・大学院・短大の合計で、奨励金授与104名、授業料免除36名となった。新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変した学生を対象に授業料のうち30万円の減免を行う行吉学園特別授業料等減免制度を設け、減免者は大学・短大合計で32名となった。

(6) 施設・設備に関する目標を達成するための計画

- ・須磨キャンパスでは食堂棟の外壁改修、A館・B館・食堂棟連絡通路の屋根設置、歩車分離歩道の整備等、P I キャンパスではD館の外壁補修及び屋上防水、調理実習室の空調機増設、防犯カメラの設置、トイレ照明の自動点灯化等、いずれも工期どおりに整備した。
- ・須磨・P I 両キャンパスで、キャンパス内の消毒除菌、消毒液の設置、飛沫防止パネルの設置、検温機器の設置等感染防止対策を実施した。

(7) 入試広報に関する目標を達成するための計画

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、上半期は高校内で行うガイダンス、進学相談会、模擬授業等を見送ることとなり、高校生への接触が大幅に減少し十分な情報提供ができなかったが、下半期に、前年度に設定した重点エリアの動向と当年度の志願者の動向等を分析し、重点地域の設定を行い重点的に高校訪問を実施した。
- ・入試改革に伴う本学の令和3年度入試の変更点について動画を10本作成し、ホームページで順次公開した。

(8) 幼稚園に関する目標を達成するための計画

- ・神戸市の認定こども園設置認可、兵庫県の幼稚園廃止認可、文部科学省の寄附行為変更認可を得るとともに、改修工事の実施、補助金の確保、保育教諭の採用・研修等を行い、令和3年4月に認定こども園へ移行することになった。
- ・預かり保育の利用者数は前年度並みの3,857名となったが、ほとんどが就労のための利用であるため、一人あたりの利用時間は延びている。時間によって遊びを工夫するなど保育内容の充実を図った。

(9) 組織に関する目標を達成するための計画

(9-1) 定員充足に関する目標を達成するための計画

- ・社会情勢、受験生の動向を把握するとともに、本学の教育資産に鑑み、新学部の設置準備を行った結果、令和4年度に心理学部を開設することになった。
- ・管理栄養士養成課程については、10年先を見据えた対応策を検討するための委員会を設置し、同委員会が対応策を提示した。

(9-2) 大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画

- ・大学・短大の統合された委員会の運営は概ね円滑に進められた。人事委員会は令和3年度から統一することになった。
- ・事務組織については、効率のよい運営に向け組織変更を検討するとともに、先行的に一部の課長職を兼務化した。

(10) 財政に関する目標を達成するための計画

- ・コロナ禍における学生支援として、同窓会、卒業生、教職員に寄付を要請し、合計約 18,000 千円の寄付をいただいた。
- ・資産運用収入の増強について、社債等の運用により予算額 10,000 千円の目標を上回る 14,000 千円の運用収入を確保した。
- ・大学及び短期大学の教員に裁量労働制を、幼稚園教諭に変形労働時間制を導入し、概ね円滑に運営した。

(別記)

(1-2) 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

①神戸女子大学

文学部

日本語日本文学科

- ・毎週の学科会議において学生の出席状況や提出物の情報共有を行った。特に、欠席回数が 1/3 に至りそうな学生に対して、保証人への連絡も視野に入れてきめ細かな対応を行った。また、GPAをもとに学生の成績状況を把握し、GPAが低い学生（概ね 2.0 以下）について履修科目を注視し、必要に応じて指導を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症のため、対面式の行事を断念し、1~4 学年の学生に「卒業論文梗概集抄」の配付、Zoom による内定者報告会等を行った。

英語英米文学科

- ・外国語学習に有効なレベル別 3 クラスの短期集中講座は、新型コロナウイルス感染症により 8 月から 2 月に延期して実施し、受講前後のクラス平均点は大きく上昇した。
- ・キャリア意識の涵養強化に向け、TOEIC 対策、英語教員養成指導、エアライン業界就職指導の 3 本柱で取り組んだ。加えて JAL との産学連携が実現し、JAL が派遣する 2 名の講師による授業を令和 3 年度に開講し、他学科の学生も受講できるようにした。

国際教養学科

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が禁止となり、すべての海外留学プログラムが実施不可能となったが、協定校のチェンマイ大学（7名）、フライブルグ大学（4名）についてはオンライン留学プログラムを実施し、同大学の学生と交流した。
- ・学科内に将来計画委員会を設置し、令和4年度のカリキュラム全面的改定に向けて議論を行い、1年次から4年次に継続する外国語授業と連動させた「国際コミュニケーション演習Ⅰ、Ⅱ」の新設等を内容とする原案を作成した。

史学科

- ・高校で漢文が未習、不十分な1回生を対象に授業「漢文講読入門」を開始した。
- ・「講読・実習群」のより効率的な科目担当の調整を行い、令和3年度より実施することとした。

教育学科

- ・事前アンケートによる実態把握、担任によるガイダンスを行った上、7月にオンラインによるコース選択説明会を実施した。8月上旬にコース選択を行い、1回生後期から4コース制をスタートすることができた。
- ・中学校英語免許課程のカリキュラム、人事配置等について検討し、専任教員採用が決定するなど中学校英語免許課程の充実に向けた体制の構築を進めた。
- ・教育学科の将来構想委員会を立ち上げ、学科会議に将来構想案を提示した。
- ・2つの模擬授業教室を各教科の教育法の授業や学生の模擬授業準備等に有効利用するとともに、タブレット20台を導入してICTを積極的に活用することにより、学生の実践的指導力の向上を図った。

家政学部

家政学科

- ・令和2年度入学生より社会調査士の資格取得に関するカリキュラムの運用が始まった。
- ・資格取得指導の結果、繊維製品品質管理士4名、インテリアコーディネーター1名、福祉住環境コーディネーター3級1名・2級3名、商業施設士補16名、リビングスタイリスト2級1名が合格した。
- ・神戸市公園緑地協会の助成金の採択を受けた「公園の特徴をいかした自然素材遊びワークショップのあり方」の調査研究、須磨離宮公園と連携した「蜜蝋ラップ」の商品開発プロジェクト、NPO法人関西子宮頸がん予防研究会と連携した動画制作など、連携先を確保して課題解決型授業を推進した。
- ・「家政学を学ぶ」（1年前期）では、manabaでレポートの提出を行ったため、例年以上にレポートの徹底的なチェックと円滑なフィードバックが実施できた。

管理栄養士養成課程

- ・今後の管理栄養士養成課程のあり方について、常任理事会より、若手教員による改革検討委員会を立ち上げ意見集約した上、学科で再度検討するよう指示があり、改革検討委員会の案と常任理事会意見を受け、実施推進委員を学科で決定した。
- ・国家試験合格、就職等のゼミ単位での支援として、Zoom、manabaによる国家試験対策の補講に加え、成績不良者のリストアップやゼミにおける課題確認等を行った。

健康福祉学部

社会福祉学科

- ・介護福祉士養成課程選択の時期を1年次から2年次とし、学生にとって時間的余裕のあるコース選択を可能にするなど大幅なカリキュラム改訂を行い、令和3年度入学生から適用する。
- ・介護福祉士等修学資金について、1年生は兵庫県8名、大阪府2名、滋賀県1名、2年生は兵庫県1名、徳島県1名、合計13名の新規希望者全員が獲得でき、昨年度と同水準となった。

健康スポーツ栄養学科

- ・令和元年度に中学校教諭一種免許状(保健体育)及び高等学校教諭一種免許状(保健体育)の教職課程が認定されたので、入試広報部と連携して、受験生向けに保健体育の資格がとれることをホームページ等で発信した。
- ・新型コロナウイルス感染症のため、給食管理実習Iを校外へ出向かず、学内での講義及び演習により開講した。

看護学部

看護学科

- ・教育評価アンケートの結果、科学的な根拠に基づいた課題対応能力と社会参加に関する評価が低く、また、国際的な視点は相対的に低い評価となったので、令和4年度新カリキュラムでこれらを強化する科目の設置や授業内容の組み込みを決定した。
- ・国際を含めて意欲をもってチャレンジする学生を伸ばす教育体制の構築に向け、カリキュラムワーキンググループにおいて、各授業科目で国際的な看護について教授している内容、時間を調査するとともに、令和4年度新カリキュラムにおいて、学生が興味をもって受講できるよう国際看護科目の名称、内容、担当者を変更した。また、6月と11月の国際ランチタイム報告会で、ケント大学(イギリス)やハワイ大学(アメリカ)の英語研修に参加した学生や青年海外協力隊

の活動経験のある教員が発表し、異文化に関心を持つ機会を提供した。12月の「国際活動なんでも聞こう!Cafe」では、外国旅行経験の豊富な教員から外国に行って初めて分かる文化の多様性を知る機会を設けた。

学校教育学専攻科

- ・学部との連携を図った結果、令和3年度入学者が1名あった。

②神戸女子大学大学院

文学研究科

- ・令和2年度から推薦入試を実施した結果、令和3年度入学者が日本史学専攻で2名あった。
- ・前期課程2年次生2名に、キャリアサポートセンターと連携しきめ細かい進路指導を実施した結果、1名は民間企業に就職し、1名は後期課程に進学した。

家政学研究科

- ・大学院やその入試に関する説明会を生活造形学専攻で2回、食物栄養学専攻で3回行った結果、食物栄養学専攻で令和3年度入学者が8名に増加した。学部と大学院の接続強化のため、修士論文中間発表会への学部生の参加、大学院生のティーチングアシスタントとしての学部授業への参加を行った。
- ・内部質保証委員会大学院教育検討部会から大学院開講科目の学部生履修に関する提案があり、これに関して前向きに進めるとの合意が得られた。

健康栄養学研究科

- ・一部の研究室に集中しているが、健康栄養学研究科の令和3年度入学生は4名となり、定員(4名)を満たした。
- ・修士1年生の前期で研究の基礎トレーニングが行える体制を構築するため、「食品・臨床分析学演習」で研究の基礎技術のひとつであるELIZAキットを用いた免疫学的微量生体物質測定法の実験を行うとともに、「国際栄養学特論」の中で研究データの解析に必要な基本的な統計学的手法を講義した。

看護学研究科

- ・研究科の完成に向け、設置申請内容に沿い、着実に運営を行った。

③神戸女子短期大学

総合生活学科

- ・ GPA の目標を 2.0 以上 3.0 未満、3.0 以上各 20%を目標にしていたところ、1 年次、2 年次とも、前期・後期で目標を超えて達成した。
- ・ 情報とビジネスの科目の統合によって 10 科目群から 8 科目群に再編成し、カリキュラム構成の見直し点検を行った。10 月に立ち上がったワーキンググループを中心に短大全体の見直しが検討されてきたが、学科内でも、総合生活学科らしい特徴を打ち出すための検討を重ねた。

食物栄養学科

- ・ 新型コロナウイルス感染症により校外実習は学内プログラムとし、Zoom を利用して学外講師や演習発表等の充実を図った。
- ・ 実務経験を経て日本で一番管理栄養士になれる短大を目指し、管理栄養士試験対策講座を開設しているが、新型コロナウイルス感染症により Zoom と manaba を使用したオンライン講座を実施し、卒業生、在学生延べ 64 名が参加した。

幼児教育学科

- ・ 新型コロナウイルス感染症により地域の子育て支援活動は中止となったが、学科特別演習 I において Zoom を使用した「にこにこ・オンラインクラブ」を実施し、ネットを介して地域の親子と繋がる活路を見出した。神戸市の主催する「赤ちゃん先生プロジェクト」に参加し、神戸市の NPO 法人「ママの働き方応援隊」のホームページ等を通じて広く紹介された。
- ・ 教職支援センターと連携して、公立幼稚園・保育所を目指す学生の教職支援に全教員が密度を上げて取り組み、前年度の倍の 7 名の合格者を輩出した。

3 特記事項

(1) 卒業生・修了者数の状況

令和2年度(9月卒業を含む)に所定の課程を修了し、卒業・修了した学生は以下のとおりである。

(単位:名)

区 分	学部・学科等		前 期	後 期	計
神戸女子大学大学院	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	4	0	4
		生活造形学専攻	0	0	0
		(小計)	4	0	4
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	0	0	0
		英文学専攻	0	0	0
		日本史学専攻	0	0	0
		教育学専攻	2	0	2
		(小計)	2	0	2
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻	3	—	3
	看護学研究科 (博士課程)	看護学専攻	2	—	2
(合計)		11	0	11	
神戸女子大学	文学部	日本語日本文学科			67
		英語英米文学科			62
		神戸国際教養学科			56
		史学科			57
		教育学科			178
		(小計)			420
	健康福祉学部	社会福祉学科			78
		健康スポーツ栄養学科			82
		(小計)			160
	家政学部	家政学科			84
		管理栄養士養成課程			168
		(小計)			252
	看護学部	看護学科			96
学校教育学専攻科				0	
(合計)				928	
神戸女子短期大学	総合生活学科				94
	食物栄養学科				86
	幼児教育学科				76
	(合計)				256

(2) 国家試験の受験・合格状況

令和2年度における国家試験（9月卒業を含む）の受験・合格状況は、以下のとおりである。

試験区分	年度	受験者	合格者	合格率	全国平均合格	全国新卒平均
管理栄養士	令和2	166名	150名	90.4%	(64.2%)	(91.3%)
	令和元	148名	134名	90.5%	(61.9%)	(92.4%)
	平成30	152名	147名	96.7%	(60.4%)	(95.5%)
社会福祉士	令和2	61名	35名	57.4%	(29.3%)	(50.7%)
	令和元	41名	33名	80.5%	(29.3%)	(56.0%)
	平成30	56名	44名	78.6%	(29.9%)	(53.7%)
精神保健福祉士	令和2	10名	10名	100.0%	(62.1%)	(71.4%)
	令和元	5名	4名	80.0%	(62.1%)	(74.0%)
	平成30	9名	9名	100.0%	(62.7%)	(77.0%)
介護福祉士	令和2	18名	18名	100.0%	(71.0%)	(77.8%)
	令和元	15名	15名	100.0%	(69.9%)	(80.0%)
	平成30	16名	16名	100.0%	(73.7%)	(83.7%)
看護師	令和2	96名	95名	99.0%	(90.4%)	(95.4%)
	令和元	90名	88名	97.8%	(89.2%)	(94.7%)
	平成30	78名	76名	97.4%	(89.3%)	(94.7%)
保健師	令和2	17名	17名	100.0%	(94.3%)	(97.4%)
	令和元	18名	18名	100.0%	(91.5%)	(96.3%)
	平成30	20名	19名	95.0%	(81.8%)	(88.1%)
助産師	令和2	5名	4名	80.0%	(99.6%)	(99.7%)
	令和元	6名	6名	100.0%	(99.4%)	(99.5%)
	平成30	3名	3名	100.0%	(99.6%)	(99.9%)

(3) 学習支援センター等

【学習支援センター】

(参加延人数)

須磨キャンパス			P I キャンパス		
基礎科目 ミニ講義	理科	10回(0名)	基礎科目 グループ学習	数学	実施なし
	数学	10回(42名)		国語	実施なし
	国語	10回(129名)	基礎科目 個別相談	数学	週1回(0名)
基礎科目 個別相談	理科	週2回(18名)		国語	週2回(0名)
	数学	週2回(111名)			
	国語	週2回(47名)			
	理科(C館1階)	週2回(41名)			

【コモンズ・サポーター主催イベント】

12月15日 シンジョ頭脳クイーン決定戦 開催

(4) 国際交流事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、海外研修プログラムの実施を見送った。
海外とオンラインでつなぎ、現地学生との異文化交流や語学学習を目的としたプログラム、及び専門家による講義、体験談等のイベントを実施した。

ア オンライン・プログラム実施状況

【オンライン・グローバルカフェ】

プログラム名	実施回数	各回募集人数	参加者学生数		
			大学	短大	合計
ハワイ大学オンライン・インターチェンジ	14	3～6	68	4	72
マンチェスター大学オンライン会話喫茶(Conversation Café)	21	10～15	212	3	215
チェンマイ大学オンライン・グローバルカフェ	10	6	46	0	46
静宜大学オンライン・グローバルカフェ	1	4	3	0	3
華南師範大学オンライン・グローバルカフェ	1	6	6	0	6
アデレード大学オンライン異文化交流	8	10	78	0	78
バーレーン王国の女子大学生とのオンライン異文化交流	2	10	6	0	6
ウダヤナ大学オンライン交流セミナー	1	10	7	0	7
ケント大学オンライン・おしゃべりカフェ	2	10～20	20	1	21
オンライン・グローバルカフェ with Alex	3	6	9	0	9
合計	63	-	455	8	463

【国際教養学科オンライン・プログラム】

(単位:名)

プログラム名	プログラム数	各回募集人数	参加学生数
チェンマイ大学 E-learning Program	2	5～6	11
フライブルク大学 Virtual German Course	1	-	4
華南師範大学「中国語ブリッジ(汉语橋)」オンライン学習プログラム	1	-	7
静宜大学 Virtual International Exchange Program	1	2	4
合計	5	-	26

【看護学科オンライン・イベント】

(単位:名)

イベント名	参加学生数
国際活動なんでも聞こうカフェ(アメリカで活躍する日本人助産師の体験談・質疑応答)	7
タイ国立チェンマイ大学看護学部との学生交流	5
合計	12

【カリフォルニア大学デーヴィス校 オンライン講演会及び学生間交流】

講演題目：「日本の妖怪 –アメリカの研究者の視点–」

講演者：マイケル・ディラン・フォスター 教授

参加者数：161名

イ 海外からの留学生受け入れ

【留学生】日本語日本文学科：ウダヤナ大学 1名（渡日できず、オンラインで履修

(5) 図書館

① 臨時休館期間における郵送サービスの実施

コロナ感染予防による学生の大学立入禁止期間において、須磨・PI の両図書館では図書館システムの WEB 予約を活用して郵送サービス（郵送料は大学負担）を実施した。

② 学生選書ツアーの WEB 選書開始

従来の店頭選書に加えて、WEB 選書を開始した。事前申込制であるが指定期間中に選書できる利点があり、次年度以降も継続する予定である。

ア 図書館利用サービス

【須磨キャンパス】

開館時間（平日 19:30 まで・土曜日 10:00～17:00）

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
開 館 日 数	266 日	263 日	188 日
入 館 者 数	113,619 名	107,793 名	25,118 名
貸 出 冊 数	22,344 冊	21,737 冊	9,777 冊
貸出冊数（1名あたり）	8.0 冊	7.7 冊	3.5 冊
AV コーナー利用者数	2,088 名	1,132 名	0 名

注）令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止として 4 月 8 日～7 月 12 日は休館

*但し、郵送サービス（コロナ禍特別予算対応）での貸出返却対応を行う。

【P I キャンパス】

開館時間（平日 21:00 まで・土曜日 10:00～17:00）

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
開 館 日 数	277 日	270 日	189 日
入 館 者 数	34,217 名	35,109 名	9,389 名
貸 出 冊 数	12,042 冊	16,291 冊	6,688 冊
貸出冊数（1名あたり）	6.1 冊	8.8 冊	2.9 冊
AV コーナー利用者数	40 名	19 名	6 名

注）令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止として 4 月 15 日～7 月 12 日は休館

*但し、郵送サービス（コロナ禍特別予算対応）での貸出返却対応を行う。

イ 資料受入状況

【須磨キャンパス】

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
蔵 書 冊 数	286,529 冊	288,689 冊	289,933 冊
図 書 購 入 冊 数	2,700 冊	2,315 冊	1,991 冊
図 書 年 間 受 入 冊 数	3,439 冊	2,984 冊	2,455 冊
視 聴 覚 資 料 年 間 受 入 数	148 件 (78 タイトル)	92 件 (61 タイトル)	79 件 (68 タイトル)
雑 誌 所 蔵 種 数	2,930 冊	2,930 冊	2,930 冊
雑 誌 年 間 受 入 種 数	219 種	219 種	219 種

注) 除籍図書：平成 30 年度 (9,011 冊)、令和元年度 (824 冊)、令和 2 年度 (1,211 冊)

注) 図書年間受入冊数：雑誌・視聴覚資料を除く

【ポートアイランドキャンパス】

区 分	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
蔵 書 冊 数	短大	117,538 冊	短大	120,085 冊	短大	121,958 冊
	大学	15,215 冊	大学	16,244 冊	大学	16,244 冊
図 書 購 入 冊 数	短大	3,083 冊	短大	2,498 冊	短大	1,657 冊
	大学	1,504 冊	大学	1,029 冊	大学	1,002 冊
図 書 年 間 受 入 冊 数	短大	3,114 冊	短大	2,547 冊	短大	1,873 冊
	大学	1,504 冊	大学	1,029 冊	大学	1,002 冊
視 聴 覚 資 料 年 間 受 入 数	短大	174 件 (65 タイトル)	短大	153 件 (65 タイトル)	短大	88 件 (34 タイトル)
	大学	12 件 (7 タイトル)	大学	24 件 (24 タイトル)	大学	23 件 (17 タイトル)
雑 誌 所 蔵 種 数	短大	378 種	短大	379 種	短大	379 種
	大学	69 種	大学	80 種	大学	80 種
雑 誌 年 間 受 入 種 数	短大	193 種	短大	185 種	短大	187 種
	大学	57 種	大学	65 種	大学	65 種

注) 除籍図書：令和元年度 (0 冊) *財務の除籍処理無し 令和 2 年度 (書籍 712 冊、VHS 41 点)

注) 図書年間受入冊数：雑誌・視聴覚資料を除く

ウ 地域開放利用状況

【須磨キャンパス】

区 分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
利 用 者 数	38 名	32 名	0 名
貸 出 冊 数	21 冊	19 冊	0 冊

注) 図書館利用サービスの入館者数、貸出冊数から抽出して再掲

注) 令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止として利用中止

(6) 研究

① 研究活動の状況

各教員の研究業績等については、学校教育法施行規則の規定に基づきホームページ上で公開している。また、研究を支援するために外部資金獲得に向けた各種学会、協会及び民間企業等の研究助成に関する情報収集を行い、関係学部・学科等に提供することにより研究活動の促進に努めている。

② 科学研究費助成事業の採択

大学においては、応募件数 45 件、新規採択件数 12 件、新規採択率は 27%であった。継続分と併せた採択件数は 50 件 (40,990 千円) となり、大学専任教員 (助手を除く 164 名) に対する採択率は 30%であった。今後も応募件数や採択件数の増加を目指し、学内個別相談会の開催、採択者の応募書類の公開など支援の一層の強化を図る。

短期大学においては、基盤研究 C 3 件、挑戦的研究 (萌芽) 1 件、若手研究 1 件を申請し、そのうち新規採択は 2 件であった。今後も申請件数の増加を図る取り組みを展開する。

③ 産学連携活動の取り組み

企業等との共同研究や受託研究及び企業等との連携による商品開発等を積極的に推進した。

【科学研究費助成事業採択状況 (大学)】

(単位：千円)

研究種目	令和元年度				令和2年度			
	件数	直接経費	間接経費	合計	件数	直接経費	間接経費	合計
基盤研究 (B)	1	1,700	510	2,210	1	2,500	750	3,250
基盤研究 (C)	30	25,000	7,500	32,500	36	21,600	6,480	28,080
挑戦的萌芽研究	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究	9	5,100	1,530	6,630	12	6,200	1,860	8,060
研究活動スタート支援	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	40	31,800	9,540	41,340	49	30,300	9,090	39,390

【企業等との共同研究や受託研究等の状況 (大学)】

年 度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
共同研究・受託研究 (継続含む)	11 件	7 件	7 件
商品化・サービスの開始など事業化への貢献	6 件	8 件	7 件
技術相談受け入れ件数	1 件	1 件	1 件
特許の申請状況	0 件	1 件	0 件

【商品開発等 (大学)】

	企 業 名	内 容
1	(株)オイシス	レシピの開発
2	ウオクニ (株)	社員食堂のメニュー開発
3	コープこうべ第 3 地区活動本部	レシピの開発
4	(株)クボタ阪神工場	食堂メニュー考案
5	神戸市立須磨離宮公園	レシピの開発
6	株式会社ジオナ	化粧品のパッケージ開発及びマーケティング
7	(株)スポルティスト	インターネットサイトでのスポーツ栄養解説

④ その他外部資金の採択状況

【大学】

	交付元	研究課題名
1	令和2年度研究助成 (公益財団法人エリザベス・アーノルド富士財団)	「血糖上昇抑制効果を有する豆粉パンの開発とその有用性の検討」
2	令和2年度学術研究奨励金 (公益財団法人三島海雲記念財団)	「モンゴル国発現のバインツェガーン遺跡発掘に基づく歴史・考古学的研究」
3	2020-2021年度 中国四国教育学会	「人口減少社会における学校」
4	2020年度 笹川科学研究助成 学術部門	「昆布摂取による高血圧予防機序における腸内細菌叢の役割」

【短大】

	交付元	研究課題名
1	令和2年度助成事業「生駒温子」児童福祉事業助成(神戸市社会福祉協議会)	にこにこママパパサークルの立ち上げ事業 ー<保育学生ー子どもー保護者>の交流を通じた育ち合い支援事業ー
2	2020年度笹川日仏財団助成金 (笹川日仏財団)	社会的養育における親子支援のあり方についての日仏比較研究ー3/3

(7) 古典芸能研究センター

① 特別講座「疫病と社会 ー風俗・歴史・文学・芸能ー」の開催

神戸女子大学・神戸女子短期大学オープンカレッジ秋期講座に参加して、特別講座「疫病と社会 ー風俗・歴史・文学・芸能ー」を開講し、多くの受講生の参加を得られた(令和2年10月12日～12月14日の隔週月曜日、全5回)。コロナ禍と向き合う現在の社会情勢に鑑み、本学教員とセンター研究員がそれぞれの専門的立場からテーマに切り込む企画であり、各回の内容は新聞紙上に連載された。

② 企画展「疫病を鎮める ー京都のやすらい祭(喜多文庫所蔵資料展5)ー」と新春ミニ展示「祈・疫病退散!～新作能《アマビエ》紹介～」の開催

特別講座「疫病と社会 ー風俗・歴史・文学・芸能ー」の開催にあわせて、展示室にて、企画展「疫病を鎮める ー京都のやすらい祭(喜多文庫所蔵資料展5)ー」を開催した(令和2年10月5日～12月25日)。平安時代に流行した疫病の退散祈願を起りとして、現代まで続く「やすらい祭」について所蔵資料を中心に紹介し、大勢の見学者を迎えた。また、新春ミニ展示「祈・疫病退散!～新作能《アマビエ》紹介～」では、現代における古典芸能の社会との関わり様やその試みを紹介して高評を得た(令3年1月7日～2月19日)。

(8) 学生

令和2年度から実施された修学支援制度の諸手続きを行った。またコロナ禍により影響を受けた学生への支援として、本学独自の授業料等減免及び政府による学生支援緊急給付金等を実施した。

障がい学生支援に関する規程およびガイドライン等を整備し、全学的な方針及び基準の統一を図るとともに、支援体制の構築を行った。

① 奨学金の採択状況

【日本学生支援機構奨学金】 採用種別奨学生数の状況

(大学)

(単位：名)

採用種別等	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	学校教育 専攻科	合計	利用者の 割合	学生数 R2.5.1
貸与 第一種(無利子)	164	197	203	194	5	/	763	20.89%	3,653
貸与 第二種(有利子)※	225	239	244	219	0		927	25.38%	
給付奨学金(旧制度4名含む)	60	88	89	66			303	8.29%	
合計(延べ人数)	449	524	536	479	5	0	1,993		

(短大)

(単位：名)

採用種別等	1年次	2年次	合計	貸与者の 割合	学生数 R2.5.1
貸与 第一種(無利子)	61	64	125	25.10%	498
貸与 第二種(有利子)※	69	65	134	26.91%	
給付奨学金	49	45	94	18.87%	
合計(延べ人数)	179	174	353		

※第二種には、入学時特別増額貸与(一時金貸与者)を含む

【行吉学園奨学制度・神戸女子大学大学院授業料等免除】 (単位：名)

区分		奨励金授与	授業料等免除	大学院 授業料等免除
大 学	1年次	—	0	—
	2年次	29	2	—
	3年次	29	2	—
	4年次	29	0	—
大学院	修士・博士	—	—	27
	博士後期	—	—	5
小 計		87	4	32
短 大	1年次	—	2	—
	2年次	20	0	—
小 計		20	2	—
合 計		107	6	32

※奨励金授与制度：前年の成績優秀者を学科から推薦し表彰するもの。奨励金として10万円が授与

※授業料等免除制度：在学中の家計急変による修学継続援助。授業料、教育施設充実費の半額を免除

※大学院授業料等免除制度：授業料の半額又は全額、授業料及び教育施設充実費の半額または全額を免除

【大学・短大関連団体の奨学金】

No.	奨学名称	区分	金額	年次	人数
1	神戸女子大学教育後援会 育英奨学生奨学金	給付（年額）	200,000 円	2～4 年次	4 名
2	青山会（大学同窓会）		後期分授業料等	4 年次	3 名
3	かなめ会（短期大学同窓会）		授業料等の半額	該当なし	

※神戸女子大学同窓会青山会の給付額は、給付者の在籍学科により給付額が異なる。

【新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生への支援】

名称	区分	金額	人数		
			大学	短大	大学院
支 援 奨 学 金	給付	50,000 円	3,588 名	498 名	44 名
行吉学園新型コロナ禍における経済的支援対策 行吉学園特別授業料等減免制度	授業料 等免除	300,000 円	25 名	7 名	—
「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』 （文部科学省/日本学生支援機構）	給付	100,000 円 （非課税世帯は 200,000 円）	372 名	73 名	8 名
新型コロナウイルス感染症対策助成事業 （日本学生支援機構）	給付	大学：50,000 円 短大：40,000 円	19 名	20 名	—

② 学生表彰の状況

学生表彰制度に基づく令和元年度の表彰者は下表のとおりである。

【大学】

表彰区分		個人	団体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者（学部生）	10 名	—
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	—	—
3	社会貢献活動において社会的に高い評価を受けた者	—	—
4	公的機関から表彰された者	1 名	—
5	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	11 名	5 団体

【短大】

表彰区分		個人	団体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者	3 名	—
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	—	1 団体
3	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	5 名	—

③ 学生寮の利用状況

区 分	年 度	定 員	入寮者	残 数	入居率
行 幸 寮	令 和 2 年 度	108	108	0	100.0%
	令 和 元 年 度	108	106	2	98.1%
	平 成 30 年 度	108	101	7	93.5%
天 神 寮	令 和 2 年 度	70	58	12	82.9%
	令 和 元 年 度	70	59	11	84.3%
	平 成 30 年 度	70	68	2	97.1%
計	令 和 2 年 度	178	166	12	93.3%
	令 和 元 年 度	178	165	13	92.7%
	平 成 30 年 度	178	169	9	94.9%

(9) 保健室

新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年4月7日、兵庫県に緊急事態宣言が発令された。本学でも学生の感染者（令和3年3月末累計12名）及び濃厚接触者が確認されたが、いずれも学外感染によるものであった。

保健室では感染者等への保健指導、一般学生及び教職員への感染予防啓発等に努めた。

- ア 感染者と濃厚接触者に対する健康調査の実施、感染拡大防止のための行動制限等の保健指導
- イ 一般学生に対する感染情報の提供や感染防止行動の啓発
- ウ 学生の健康相談や不安解消のためのカウンセリングの実施
- エ 保健管理委員会等での情報共有

例年4月に実施する学生健康診断については、集団健診を8月以降に延期するとともに、実習前の健康診断を円滑に行うために、最寄の医療機関等で個別に健康診断を受診できる体制を整え受診経費を支弁した。

学生相談室では、コロナ禍の取り組みとして、通常どおり開室したうえ、カウンセリングを基本としつつ、電話またはメールによる相談にも対応した。

【保健室の利用状況（教職員除く）】

(単位:件)

	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	大学		短大	大学		短大	大学		短大
	須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
学生利用	1,563	1,081	518	1,321	1,094	424	1,117	762	453
	2,644			2,415			1,879		
学校医による健康相談			38			39			1
嘱託医による精神保健相談			31			23			24

【学生相談室の利用状況】

(単位:名/実数)

	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	大学		短大	大学		短大	大学		短大
	須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
相談実人数	39	16	2	35	15	8	29	9	9
	55			50			38		
相談内容別実人数	学業	1	0	4	0	0	0	0	
	進路	3	0	1	1	1	0		
	心理	50	2	43	7	32	9		
	生活	1	0	2	0	3	0		
	その他	0	0	0	0	2	0		

※令和2年度は、電話やメール相談を含む実人数である。

(10) 教職支援

① 大学

大学では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教採受験希望者を対象としたワークショップ、ガイダンス、面接練習等の教職支援を年度当初すぐに行えるかぎりオンラインに切り替え、集団討論、集団面接、体育実技、模擬授業はZoomで対応した。オンライン対応が難しい小論文や履歴書の添削は郵送、電話とともに、mababaを活用した。一部対面授業が開始された6月以降は、感染対策を講じたうえ、対面での指導を行った。

また、筆記試験対策としてライブラリーコモンズと連携し、計画的に個々に応じた学習支援を早くから行ったことにより、小学校の筆記試験での合格者数を令和元年度の94名から令和2年度には140名と劇的に増やすことができた。

2次対策では、登校時間が限られたなかで、教職支援センターと実技担当、ゼミ担当の教員全員が協力し、短期間で学生へのサポートを行った結果、公立学校教員採用試験で大幅な合格者の増加につながった。

【大学 教員就職者数の推移（新規卒業者）】

(単位：名)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
幼稚園教諭	12	3	8	0	14	3	12	1	7	1
小学校教諭	32	18	43	16	41	13	34	14	46	16
中学校教諭	4	7	3	4	3	10	7	5	5	5
高等学校教諭	3	7	1	5	0	6	2	3	0	4
特別支援学校	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
栄養教諭	0	0	1	2	3	1	0	4	0	4
養護教諭	—	—	—	—	0	1	0	0	0	5
教員計	51	35	56	27	61	35	55	27	58	35
保育士	45	3	54	2	58	1	45	3	56	0

*「保育士」就職者に「こども園」就職者も含む。 *令和元年度の臨時は3月31日現在

【大学 公立学校教員採用試験の合格者数（新規卒業者）】(単位：名 *合格者数は延べ数)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
幼稚園・保育所等	26	39	41	32	24
小学校	39	58	59	55	99
中学校	4	3	4	9	6
高等学校	3			2	
特別支援学校					
栄養教諭		1	5		
教員計	72	101	109	98	129

② 短大

短大では、新型コロナ対策で来学できないなか、幼児教育学科2年生全員と電話で個別面談を行い、公立幼保就職促進及び就職支援強化を図った。実習中の学生に対しZoomで試験対策を行うなど新しい支援方法を実施し、公立幼保採用試験の合格につながった。

幼児教育学科のカレッジアワー等を活用し、教職ガイダンスを実施した。また、全学科対象に昼休みの公立対策勉強会を開催した。公立幼保採用試験の1次合格は16名、最終合格は正規7名（うち2か所合格1名）、臨時任用1名であった。総合生活学科は臨時的任用3名であった。

【短期大学 教員・保育士就職者数の推移（新規卒業者）】

（単位：名）

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
中学校	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
公立保育所	2	1	1	1	3	2	2	0	5	1
私立保育所	47	3	29	0	27	0	9	1	27	0
公立幼稚園	1	1	0	1	0	1	0	1	1	0
私立幼稚園	14	0	3	1	5	0	9	0	7	0
公立こども園	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0
私立こども園	32	1	45	0	47	0	45	0	31	0
施設	1	0	0	0	2	0	2	0	0	0
児童館、学童	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
計	98	9	78	4	84	4	68	3	71	4

(11) 就職支援

① 大学

大学の令和3年3月31日現在の就職率は93.9%、進路決定率は90.8%である。昨年同時点と比べ就職率が0.7%、進路決定率は2.0%の低下となり、運輸、宿泊、飲食等の業種の不況により厳しい状況となった。

業界研究セミナー、学内企業説明会をオンラインで開催した。また、学生対応については対面とオンラインを併用して実施し、きめ細かい支援を行った。

② 短大

短大の令和3年3月31日現在の就職率は97.7%、進路決定率は90.2%である。昨年同時点と比べ就職率が0.2%、進路決定率は7.9%の低下となり、同様に厳しい状況となった。

学内企業説明会をオンラインで実施し、学生の進路決定に役立てることができた。SPI対策講座をオンライン講座で実施することで、学生の利便性を高めた。

大学、短大ともに、未内定の卒業者に求人情報の提供、相談等の支援を行っている。

令和3年度入学試験の結果について

(上段: 令和3年度・下段: 令和2年度)

学 科	全 入 試 状 況											
	募集人員	志願者数	前年比	受験者数	前年比	合格者数	前年比	合格倍率	手続者数	辞退者数	入学者数	定員充足率
			(%)		(%)		(%)					(%)
日 文	60	545	122.2%	466	105.7%	148	96.1%	3.1	65	11	54	90.0%
	60	446		441		154		2.9	67	21	46	76.7%
英 米	60	371	91.2%	340	83.5%	103	73.0%	3.3	61	18	43	71.7%
	60	407		407		141		2.9	67	9	58	96.7%
国 際	60	481	118.8%	416	103.2%	128	113.3%	3.3	59	9	50	83.3%
	40	405		403		113		3.6	48	4	44	110.0%
史 学	60	421	90.5%	383	82.5%	140	88.6%	2.7	65	14	51	85.0%
	60	465		464		158		2.9	72	20	52	86.7%
教 育	165	1,166	117.5%	1,048	106.3%	292	90.4%	3.6	165	42	123	74.5%
	165	992		986		323		3.1	188	33	155	93.9%
家 政	80	662	121.7%	593	109.4%	194	103.2%	3.1	104	13	91	113.8%
	80	544		542		188		2.9	101	16	85	106.3%
管 栄	150	1,028	102.0%	962	96.0%	296	106.9%	3.3	166	27	139	92.7%
	150	1,008		1,002		277		3.6	155	27	128	85.3%
福 祉	80	453	120.2%	412	109.3%	145	88.4%	2.8	76	18	58	72.5%
	80	377		377		164		2.3	73	11	62	77.5%
栄 養	80	445	106.0%	385	92.1%	105	80.8%	3.7	63	10	53	66.3%
	80	420		418		130		3.2	77	10	67	83.8%
看 護	90	1,993	141.1%	1,893	135.4%	234	101.7%	8.1	123	30	93	103.3%
	90	1,412		1,398		230		6.1	119	31	88	97.8%
大学合計	885	7,565	116.8%	6,898	107.1%	1,785	95.0%	3.9	947	192	755	85.3%
	865	6,476		6,438		1,878		3.4	967	182	785	90.8%
(前年との差異)		1,089		460		-93			-20	10	-30	
総 生	100	341	136.4%	311	126.9%	141	84.9%	2.2	71	3	68	68.0%
	120	250		245		166		1.5	114	6	108	90.0%
食 栄	60	297	170.7%	268	154.0%	97	98.0%	2.8	54	0	54	90.0%
	120	174		174		99		1.8	67	2	65	54.2%
幼 教	80	258	192.5%	237	176.9%	107	113.8%	2.2	43	0	43	53.8%
	100	134		134		94		1.4	68	0	68	68.0%
短大合計	240	896	160.6%	816	147.6%	345	96.1%	2.4	168	3	165	68.8%
	340	558		553		359		1.5	249	8	241	70.9%
(前年との差異)		338		263		-14			-81	-5	-76	
総合計	1,125	8,461	120.3%	7,714	110.3%	2,130	95.2%	3.6	1,115	195	920	81.8%
	1,205	7,034		6,991		2,237		3.1	1,216	190	1,026	85.1%
(前年との差異)		1,427		723		-107			-101	5	-106	

・上記志願者数等の人数には第二志望を含む。

入 学 学 生 数

設 置	種 別	入 学 者 数 等			
		令和2年度	令和3年度		昨 年 比
		入学者	合格者数	入学者数	入学者
大 学	学 部	785	1,785	755	96.2%
	専攻科	0	1	1	-
	大学院	18	21	20	111.1%
	<small>修士・博前</small>	4	7	7	175.0%
	<small>博 後</small>	9	8	8	88.9%
	編 入	3	4	2	66.7%
	<small>学園内編入</small>				
<small>一般編入</small>					
計		819	1,826	793	96.8%
短 大	計	241	345	165	68.5%
合 計		1,060	2,171	958	90.4%

(13) 収益的事業

① オープンカレッジ

例年、ミドル・シニア世代を対象としたアカデミックな講座や現代社会においてニーズのある講座を開講していたが、コロナ禍の影響により不開講又は延期となり、受講者数年間延べ904名、収益は217千円（前年比6,201千円減）となった。

② 貸室（教室・体育館等）

試験会場、神戸太極拳協会等の利用はあったものの、各学会・研修会等多数の開催中止を余儀なくされ、総収入は4,466千円（前年比426千円減）となった。

③ 卒業貸衣裳、自販機手数料等

学内に設置する自販機（食堂業者が設置するものを除く）の管理、自動車教習所の紹介等の収入があった。ただし、卒業式用の貸衣裳紹介手数料については、学位記授与式はスーツ着用及び卒業祝賀会の中止によりゼロとなった。

(14) 幼稚園

① 在園者数

（令和2年5月1日現在）

区分	クラス	在園児	入園児	合計	
園児数	2歳児	—	6名	10名	
	満3歳児		4名		
	3歳児	3	16名	38名	54名
	4歳児	2	43名	2名	45名
	5歳児	2	53名	2名	55名
合計	8	112名	52名	164名	

② 子育て支援

ア 2歳児クラスの保育内容及び環境の充実を図る。

イ にこにこクラブ（兵庫県補助対象事業）

未就園児の親子を対象として、毎週月・火・金曜日に実施しているが、令和2年度は分散して45回（10～3月）実施した。（火曜日は教育実習の一環）

i 幼稚園の生活に向けて、安定した母子分離を図る。

ii 幼児、保護者の交流を深め、情報交換の場とする。

ウ わくわく幼稚園（兵庫県補助対象事業）

在宅幼児を小学校教育へ円滑に移行させるため、在園児と同等の専門的な幼児教育を計画的に実施する予定だったが、コロナ対応で実施できなかった。

エ みんなの幼稚園（神戸市私立幼稚園連盟補助対象事業）

未就園児が幼稚園教育を体験し交流を深め、安定した家族関係をつくることを目的として実施している。例年より実施回数は少ない。

未就園児親子登園日（45回） 園庭・園舎開放（19回）
教育相談（26回） 母親教室（3回）

オ 園庭開放

第1・第3水曜日（14:00～16:00）、地域の親子を対象に園庭を開放している。

カ 預かり保育

ほぼ毎日、保育終了後から19:00まで実施している。

延べ利用日数234日 延べ利用人数3,857名(昨年度比1.0倍)

③ 地域との関わり

園児が地域行事に参加し、地域の方々と触れ合うことにより、様々な人と関わる力を身に付けている。令和2年度はコロナ禍の影響により高倉台ふるさとまつりへの参加、トライやるウィークの中学生受入れはできなかったが、次の事業は交流活動を省略して実施した。

ア シルバーカレッジの昔あそび研究会との連携

イ 高倉台一人暮らしの方とのクリスマス会への参加

ウ 小・中学校との連携

④ 施設の充実

ア 園庭遮光ネット更新

イ 調理室厨房内エアコン増設

ウ 保育室エアコン4台更新

エ 照明LED化更新（施設の約半分）

オ 西側1F保育室及びトイレ改修

カ 園庭土山土管撤去

キ 西側搬入口門扉改修

⑤ 認定こども園への移行準備

令和3年4月1日に幼保連携型認定こども園へ移行するための準備を行った。

ア 神戸市の認定こども園設置認可 設置日 令和3年4月1日

イ 兵庫県の幼稚園廃止認可 廃止日 令和3年3月31日

ウ 文部科学省の寄附行為変更認可

廃止 令和3年3月31日 設置 令和3年4月1日

エ 改修工事 工期 令和2年10月～令和2年12月 事業費20,350千円

オ 補助金 国・神戸市合計 16,822千円

カ 研修等 先行園調査2回、内部研修6回、外部研修2回

(15) 新型コロナウイルス感染症に対する主な取組み

① 感染者状況（令和3年3月末累計）

須磨・P I 両キャンパスで学生12名の陽性者が確認された。
なお、学内感染者はなかった。

② 学内方針の決定・周知

令和2年3月12日学長を本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、以後、感染症の局面展開に応じて学内方針を検討・決定した。

ア 新型コロナウイルス感染症拡大の防止に係る大学の取組方針

令和2年4月1日、4月9日、5月18日、5月28日、7月30日、令和3年1月7日、3月1日に政府の緊急事態宣言等に合わせて本学の取組方針を決定し、教職員・学生への周知を図った。

イ 遠隔授業実施に係るガイドライン

令和2年5月28日に同ガイドラインを策定し、その後、1回の改訂を行い教職員への周知を図った。

ウ 学内等における新型コロナウイルス感染症対応マニュアル

令和2年5月28日に同マニュアルを策定し、その後、2回の改訂を行い教職員・学生への周知を図った。

エ 新型コロナウイルス感染予防のための学生生活ガイドライン

令和2年7月30日に同ガイドラインを策定し、その後、1回の改訂を行い、学生への周知を図った。

オ Campus Life Guide with COVID-19

令和3年3月5日に同マニュアルを策定し、新年度に向けて新入生・在学生への周知を図った。

カ 教育研究活動指針 with COVID-19 2021年度版

令和3年3月1日に同指針を策定し、新年度に向けて教職員への周知を図った。

③ 情報提供

ア 学生、教職員に対し、ホームページ「新型コロナウイルス感染症対応特設サイト」の開設、Kiss システムを通じて、都度、コロナウイルスに対する対応等に関する最新情報を提供し周知を図った。

イ 各種の感染対策について、休憩時間に学内放送による周知を図った。

④ 感染防止対策

ア 非接触型の体温計を両キャンパス入口に設置し、検温当番による検温を実施した。

イ 「キタカエル・システム」により学生の入構時・帰宅時の時刻チェックを行った。

ウ 学内の全ての教室前、食堂、建物入口等に消毒液を設置し、また、授業終了後に教室内の机等の消毒作業を行った。

エ 食堂等、学生が集中する場所のテーブルに飛沫防止用アクリルパネルを設置した。

⑤ 遠隔授業の実施

国・県等からの要請に先立ち、主体的に遠隔授業について検討し、面接授業と遠隔授業のバランスを取りながら、教育の質を下げることのないよう適切に授業を実施した。

⑥ 学生の経済支援

コロナ禍により影響を受けた学生への経済支援として、本学独自の支援奨学金、授業料等減免及び国等による学生支援緊急給付金等を実施した。

ア 本学独自の支援

支援奨学金 在籍学生全員に1人当たり50,000円を給付

特別授業料等減免制度 家計急変学生に授業料300,000円を免除

イ 国・日本学生支援機構の支援

「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」

アルバイト収入半減学生に100,000円（非課税世帯200,000円給付）を給付

新型コロナウイルス感染症対策助成事業

経済的に困窮した学生に大学50,000円、短大40,000円を給付

⑦ 学生の健康支援・相談

ア 感染者と濃厚接触者に対する健康調査の実施、感染拡大防止のための行動制限等の保健指導

イ 一般学生に対する感染情報の提供や感染防止行動の啓発

ウ 学生の健康相談や不安解消のためのカウンセリングの実施

エ 保健管理委員会との情報共有

Ⅲ 財務の概要

1 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
固定資産	29,134,091	27,646,948	27,287,000	27,661,009	28,458,944
流動資産	6,902,883	8,378,966	8,327,132	7,906,726	6,994,230
資産の部合計	36,036,974	36,025,914	35,614,132	35,567,735	35,453,174
固定負債	1,393,240	1,430,761	1,482,695	1,472,268	1,505,848
流動負債	1,280,818	1,368,203	1,270,319	1,132,531	1,056,590
負債の部合計	2,674,058	2,798,964	2,753,014	2,604,799	2,562,438
基本金	44,883,449	45,022,148	45,096,146	45,296,563	45,459,594
繰越収支差額	△ 11,520,533	△ 11,795,198	△ 12,235,028	△ 12,333,627	△ 12,568,858
純資産の部合計	33,362,916	33,226,950	32,861,118	32,962,936	32,890,736
負債及び純資産の部合計	36,036,974	36,025,914	35,614,132	35,567,735	35,453,174

イ) 財務比率の経年比較

比率	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
運用資産余裕比率	155.4%	165.0%	164.0%	171.8%	163.6%
流動比率	538.9%	612.4%	655.5%	698.1%	662.0%
総負債比率	7.4%	7.8%	7.7%	7.3%	7.2%
前受金保有率	586.3%	684.3%	733.9%	801.2%	737.0%
基本金比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
積立率	49.5%	50.1%	49.6%	50.0%	49.4%

(2) 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
学生生徒等納付金収入	4,708,884	4,897,923	5,242,549	5,371,462	5,299,372
手数料収入	121,068	135,319	127,834	108,832	74,502
寄付金収入	12,065	15,450	10,716	9,749	22,561
補助金収入	548,800	546,697	386,769	495,851	789,897
資産売却収入	800,000	900,000	623,707	420	62,500
付随事業・収益事業収入	95,127	89,412	108,663	109,932	68,410
受取利息・配当金収入	9,042	5,862	4,782	6,667	15,399
雑収入	185,535	304,185	118,650	324,268	428,638
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,149,910	1,190,028	1,106,701	956,999	891,196
その他の収入	1,707,450	1,787,196	1,936,277	1,770,868	2,810,774
資金収入調整勘定	△ 1,196,891	△ 1,352,202	△ 1,371,182	△ 1,324,926	△ 1,363,719
前年度繰越支払資金	6,105,898	6,742,257	8,143,516	8,121,577	7,667,919
収入の部合計	14,246,888	15,262,127	16,574,195	15,951,699	16,767,449

支出の部	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
人件費支出	3,629,762	3,771,982	3,865,071	3,948,984	4,024,590
教育研究経費支出	1,166,485	1,074,886	1,177,881	1,161,089	1,532,409
管理経費支出	654,931	511,941	525,492	484,399	488,373
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	124,858	57,941	124,701	59,650	77,512
設備関係支出	83,076	87,820	118,084	155,062	96,128
資産運用支出	601,614	301,614	1,201,614	1,201,614	2,428,821
その他の支出	1,384,669	1,455,305	1,571,107	1,399,629	1,664,129
資金支出調整勘定	△ 140,764	△ 142,878	△ 131,332	△ 126,647	△ 112,875
翌年度繰越支払資金	6,742,257	8,143,516	8,121,577	7,667,919	6,568,362
支出の部合計	14,246,888	15,262,127	16,574,195	15,951,699	16,767,449

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	5,671,479	5,988,987	6,130,394	6,419,908	6,666,557
教育活動資金支出計	5,451,178	5,358,808	5,568,445	5,594,472	6,045,373
差引	220,301	630,179	561,950	825,437	621,183
調整勘定等	86,077	△ 22,303	△ 53,510	△ 178,881	△ 264,705
教育活動資金収支差額	306,378	607,876	508,440	646,556	356,478
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	300,000	300,000	323,707	300,606	316,822
施設整備等活動資金支出計	507,933	445,761	542,785	514,712	473,639
差引	△ 207,933	△ 145,761	△ 219,078	△ 214,106	△ 156,818
調整勘定等	30,757	△ 71	△ 3,421	0	1,889
施設整備等活動資金収支差額	△ 177,176	△ 145,832	△ 222,499	△ 214,106	△ 154,929
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	129,202	462,044	285,941	432,450	201,549
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	2,055,514	2,273,638	2,038,767	1,296,381	2,370,448
その他の活動資金支出計	1,548,360	1,334,421	2,346,648	2,182,487	3,671,556
差引	507,154	939,216	△ 307,881	△ 886,106	△ 1,301,107
調整勘定等	4	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	507,158	939,216	△ 307,881	△ 886,106	△ 1,301,107
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	636,360	1,401,259	△ 21,940	△ 453,657	△ 1,099,557
前年度繰越支払資金	6,105,898	6,742,257	8,143,516	8,121,576	7,667,919
翌年度繰越支払資金	6,742,257	8,143,516	8,121,576	7,667,919	6,568,362

ウ) 財務比率の経年比較

比率	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
教育活動資金収支差額比率	5.4%	10.1%	8.3%	10.1%	5.3%

(3) 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	4,708,884	4,897,923	5,242,549	5,371,462	5,299,371
	手数料	121,068	135,319	127,833	108,832	74,502
	寄付金	12,065	15,450	10,716	9,960	22,561
	経常費等補助金	548,800	546,697	386,769	495,665	773,075
	付随事業収入	95,127	89,412	108,663	109,932	68,409
	雑収入	185,535	315,118	253,863	324,647	435,144
	教育活動収入計	5,671,479	5,999,919	6,130,393	6,420,498	6,673,062
	事業活動支出の部					
	人件費	3,673,835	3,820,435	3,917,006	3,938,936	4,064,676
	教育研究経費	1,834,636	1,744,880	1,850,366	1,835,522	2,162,113
	管理経費	717,665	573,603	590,387	548,085	549,617
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	6,226,136	6,138,918	6,357,759	6,322,543	6,776,406	
教育活動収支差額	△ 554,657	△ 138,999	△ 227,366	97,955	△ 103,344	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	9,042	5,862	4,782	6,667	15,399
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	9,042	5,862	4,782	6,667	15,399
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	9,042	5,862	4,782	6,667	15,399
	経常収支差額	△ 545,615	△ 133,137	△ 222,584	104,622	△ 87,945
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	868	1,350	3,908	1,733	19,802
	特別収入計	868	1,350	3,908	1,733	19,802
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	1,999	4,179	147,156	4,538	4,057
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出計	1,999	4,179	147,156	4,538	4,057	
特別収支差額	△ 1,131	△ 2,829	△ 143,248	△ 2,805	15,745	
基本金組入前当年度収支差額	△ 546,746	△ 135,966	△ 365,832	101,817	△ 72,200	
基本金組入額合計	△ 201,826	△ 138,699	△ 73,999	△ 200,417	△ 163,031	
当年度収支差額	△ 748,572	△ 274,665	△ 439,831	△ 98,600	△ 235,231	
前年度繰越収支差額	△ 10,771,961	△ 11,520,533	△ 11,795,198	△ 12,235,028	△ 12,333,627	
基本金取崩額	0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 11,520,533	△ 11,795,198	△ 12,235,029	△ 12,333,627	△ 12,568,858	
(参考)						
事業活動収入計	5,681,389	6,007,131	6,139,083	6,428,898	6,708,263	
事業活動支出計	6,228,135	6,143,097	6,504,915	6,327,081	6,780,463	

イ) 財務比率の経年比較

比率	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
人件費比率	64.7%	63.6%	63.8%	61.3%	60.8%
教育研究経費比率	32.3%	29.1%	30.2%	28.6%	32.3%
管理経費比率	12.6%	9.6%	9.6%	8.5%	8.2%
事業活動収支差額比率	△9.6%	△2.3%	△6.0%	1.6%	△1.1%
学生生徒等納付金比率	82.9%	81.6%	85.5%	83.6%	79.2%
経常収支差額比率	△9.6%	△2.2%	△3.6%	1.6%	△1.3%

2 その他

(1) 有価証券の状況

種 類	当年度 (令和3年3月31日)		
	貸借対照計上額	時価	差額
債 券	1,398,741,667	1,404,649,000	5,907,333
株 式	—	—	—
投資信託	—	—	—
貸付信託	437,500,000	437,500,000	0
その 他	—	—	—
合 計	1,836,241,667	1,842,149,000	5,907,333
時価のない有価証券	1,437,600		
有価証券合計	1,837,679,267		

(2) 借入金の状況 該当なし

(3) 学校債の状況 該当なし

(4) 寄付金の状況

(単位：千円)

科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
寄付金収入	12,065	15,450	10,716	9,749	22,561
特別寄付金収入	6,365	9,700	6,558	6,769	7,138
教育研究特別寄付金収入	2,265	2,000	2,858	2,279	2,242
施設設備寄付金収入	0	0	0	0	0
奨学研究助成金収入	4,100	3,200	500	600	600
公募研究助成金収入	0	4,500	3,200	3,890	4,296
一般寄付金収入	5,700	5,750	4,158	2,980	15,423
一般寄付金収入 (保証人)	4,820	4,260	3,140	1,900	580
個人寄付金収入 (その他)	580	1,070	610	730	10,493
法人寄付金収入 (その他)	300	420	408	350	4,350

(5) 補助金の状況

(単位：千円)

科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
補助金収入	548,800	546,697	386,769	495,851	789,897
国庫補助金収入	496,418	497,879	335,836	440,851	722,985
国庫補助金収入(教)	496,418	497,879	335,836	440,851	486,010
国庫補助金収入(施)	0	0	0	0	12,130
授業料等減免費交付金	0	0	0	0	224,845
地方公共団体補助金収入	52,382	48,518	50,932	54,001	66,912
地公体補助金収入(教)	52,382	48,518	50,932	53,815	62,220
地公体補助金収入(施)	0	0	0	186	4,692
学術研究振興資金収入	0	300	0	1,000	0

(6) 収益事業の状況 該当なし

(7) 関連当事者との取引の状況

ア) 関連当事者 該当なし

イ) 出資会社 該当なし

(8) 学校法人間財務取引 該当なし

3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和2年度における事業活動収入は、学生数前年比「△80名」により学生生徒等納付金が「72百万円」減少したが、高等教育の無償化等による経常費等補助金「277百万円」の増加、雑収入「111百万円（含む退職金財団交付金『129百万円』）」の増加により、前年比「+279百万円」となった。

事業活動支出は、高等教育の無償化に伴う奨学費「225百万円」や、学生への支援奨学金「207百万円」により、前年比「+453百万円」となった。

以上により、基本金組入前当年度収支差額は「△72百万円」となり、前年比「△174百万円」の赤字基調となった。基本金組入額は「△163百万円」、これにより当年度収支差額は「△235百万円」の支出超過となり、前年比では「△137百万円」となった。

令和3年度の学生募集は、大学において前年比「△30名」、短期大学は入学定員「240名」に対して入学者数「165名」となり、学生数（大学短大）は前年比「△285名」となった。また、令和4年度の新学部「心理学部」の開設に向けて設備投資や広報活動を行うことから、大幅な支出超過となることが見込まれる。

今後においては、新学部「心理学部」開設やその相乗効果により学生数を確保するとともに、引き続き執行内容の見直し等による経費の節減に努め収支の改善を図りたい。



「自立心・対話力・創造性」
を培う教育を目指しています

学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

<https://www.yg.kobe-wu.ac.jp>

Tel :078-303-4712

Fax:078-303-4713